

# Real Works

とやまの  
モノづくり企業  
たち

【リアル・ワークス】



富山を引き継ぐ



回転台の上に乗せてフッ素樹脂をコーティングするため、均一な塗膜を作ることができる



フッ素樹脂がはがれた釜(左)も、再コーティングにより、新品同様になる(右)。業界に先んじて始めたサービスだ

平成五年ごろ、二十代後半だった苗加康孝社長(当時専務)は全国各地に出張し、製品を売り込む日々を続けていた。会社四季報を開き、アルミ製品を扱う会社をリストアップ。作業服を着てトラックで早朝出発し、数社を回って、日付が変わってから高岡に戻る。東京まで出張したにもかかわらず、商談時間はたった三分ということも一度や二度ではなかった。

一八六七(慶応三年)の創業以来、高岡仏具を製造。昭和に入り家庭用ガス炊飯器のアルミ釜を製造するようになったが、電気炊飯器の普及とともに、目に見えて受注が減っていった。平成になってますます経営状況が苦しくなる中、苗加社長は、家庭用製品から手を引き、品質が評価される業務用分野に特化することを決断した。

本格的に営業を始めて二年后、徐々に受注が増え始めた。コンビニエンスストアの普及とともに、弁当やおにぎりの需要が急速に伸びたことも追い風となり、平成十五年には業務用炊飯器向けアルミ釜において全国シェアの90%を占めるようになった。三分だけしか商談に応じてくれなかった会社も今では大切な取引先だ。

## 企業Data

### 有限会社 苗加製作所

〒933-0344  
富山県高岡市世川2904  
TEL.0766-31-1111  
FAX.0766-31-1819  
URL <http://www.suihan.com>  
創業 1867(慶応3)年  
設立 1973(昭和48)年4月  
代表取締役社長 苗加 康孝  
資本金 1,800万円  
従業員数 25名  
<事業内容>  
アルミニウム鋳造  
アルミニウム製品の製造・販売  
<事業所>  
本社、第2工場および流通センター  
<主要取引先>  
大手業務機器厨房メーカー



「苦しい時期があったからこそ今がある」。そう振り返る苗加社長を支えたのは、創業百四十一年の年月に裏づけられた確かな技術。金型鋳造は製品の仕上がりが安定しているが、同社ではさらに鋳型作りとアルミを流し込む方法に独自の工夫を施し、肉薄で細かい空洞のない鋳肌を生んでいる。鋳肌の美しさは、「飯をムラなく炊き上げることにもつながっている」。

翌日納品といった急な注文にも、作業工程を柔軟に組み替えて対応している。それを可能にしているのが、金型の製造から鋳造、旋盤加工、表面処理、検査までの一貫生産システムだ。「難しい注文にもこたえることが信頼につながる」と苗加社長。

新たな領域への挑戦にも余念

がない。微細な鉄粉をアルミの表面に音速の二・三倍で吹きつけて皮膜をつくる「音速フレーム溶解」という技術により、業務用のアルミ製IH(電磁誘導加熱)釜の開発にも成功している。

また、同社は母材とのすき間のない独自のフッ素樹脂コーティング技術を開発した。釜の内側に施されたフッ素樹脂は、使ううちにはがれてくるが、その製品を一旦、引き取り、再コーティングを施し、新品同様にして再び納品する。この技術は新たな顧客開拓にもつながっている。

今はプロダクトデザイナーと組み、インテリアや家庭用製品などの分野にも取り組んでいる。「鋳造や表面加工の技術を生かす可能性がまだあるはず」。苗加社長の挑戦は続く。

苦しい営業活動支えた  
技術への自信  
全国シェア9割つかむ



●高岡市

有限会社 苗加製作所

「全型製造から表面処理まで一貫してできるのが強み」と話す苗加社長。大型のアルミ釜でも、美しい鑄肌が損なわれないのは同社ならではの



大手アウトドア商品製造販売会社から依頼を受け、デザイン提案をしながら商品化したアウトドア用高級グリル。ふたに「MADE IN TOYAMA JAPAN」の製造地表示を入れ、富山のものづくりをアピール



旋盤機にかけた後、さらに表面を滑らかにするため、手作業で丁寧に仕上げる